

### 緊急時に役立つ防災無線

防災無線の声を隈無く市民の家庭に届けるのは難しい作業ですが、緊急時に市民の安全を確保するため、どうしても必要な仕事です。

無線塔直下の方にはうるさいと言われ、声が聞き取りにくいところからは、もう少し大きな声にと、矛盾した要望の板挟みの中で、難しい市民間の利害調整も図りながらのご苦労は大変かと思えます。声が全く聞き取れないとの相談を受け、さっそく市の防災の窓口に行きました。

防災無線は現在四十局、十九・二十年度で五十局に増加予定で、改善が進む予定とのこと、聞き取りにくいところがあれば、申し出て下さいとお話してしたので、とりあえず要望地付近の、調査・改善をお願いしてきました。



年金の滞納分の支払の見通しがついて、大事には至らず解決できましたが、もう少し市民の立場に立つて親身に、お話を聞いてあげるべきではないかと思ひ、生活福祉課に伺うことにしました。

横の連絡を密にとるとか、市民のお話しを十分にお聞きし、対応策を取ることは確かに望ましいと認めます。しかし相談者が、必ずしも正直に実態を話してくれないケースが多いこと、プライバシーの尊重で、保護の申請が提出されてからでないと、個人の状況が明らかにならないため、親身に聞いてから、融資に回

### 市役所の対応に改善を！

先日、数年前に福生市に転入された六十七歳の市民の方から、生活相談を受けました。

その方は十年前前、事業に失敗され、その上健康も害したため、いま定収が望めない状況にあること。この為年金の掛け金の滞納完済が出来なく、支給時期を過ぎているのに、年金の支給を受けられずにお困りとのこと。しかも、来月には年金の受給資格も失ってしまうことになる。何とかしたいが、方策はないだろうかとこの相談でした。保証人の確保が難しく、都の生活支援融資も難しい。状況からして、生活保護該当と判断して、生活福祉課に相談に行くよう助言しました。

すと、さんざん聞いたあげくに又同じ事を話させると、苦情に発展するケースや、あれだけ沢山聞いたのに、申請出したら生活保護申請を却下されたと、怒り狂う申請者もいるので、あまり申請行為前に、深く突っ込んで聞けない実情もあるとの説明でした。私は、沖縄のある自治体が多重債務者救済に取り組んでいる事例を思い出しました。そこでは、多重債務の問題解決のなかで、過払い請求などにより、サラ金からお金を取り戻し、本人の生活救済を図るとともに、市税や国保の滞納を解決することが出来たなどの事例です。

過払い請求とは法定金利を超えて、支払った分を返してもらふこと。

(法定金利)	
一〇万円未満	二十%
一〇万円以上一〇〇万円未満	十八%
一〇〇万円以上	十五%

私の紹介で、生活福祉課に出向いた方への対応は、きわめて不親切なものでした。

生活福祉課に出向き、当座の生活資金が無いので貸してもらえないかと申し出をしたところ、「車が有るんでしょ、車売れば良いでしょ」「うちはお金を貸すところじゃないから、福祉センターに行つて下さい。」との受け答えだったそうです。



その方が言うには、確かに納め先は福生市では無かったが、事業が順調の時には税金を沢山納めて来たのに、何という仕打ちをするものかと、自分の置かれた状況を顧みる余裕も無く帰つて来てしまつたと、怒りに震えたことのお話をされました。

この方の場合、なんとか

全部がそう美味く話が解決しないまでも、こういう施策が実行されてこそ、市民のための市政と言えるのではないのでしょうか？

### なんのための税金か

福生市政は、一〇万円の緊急融資返済の焦げ付きが多いから、この制度を廃止しようかと検討を始めているとも聞きます。市内の公共施設利用者のための駐車場の、有料化を検討するとも聞いています。

市民の税金を有効に管理するとは、市民に受益者負担だとなんでも押しついたり、やたら節約につとめ、ため込めば良いというものではないはず。しかも実際には、自民党・公明党中心に促進したごみ焼却場建設では、必要より三倍近い施設建設費用をかけ、いまその費用負担が市民に押し寄せています。(裏面へ)



元足立区長

よし だ まん ぞう

吉田万三



元参議院議員秘書

た む ら と も こ

田村智子

